

<参考>

1) アホウドリについて

アホウドリ (*Diomedea albatrus*) ミズナギドリ目アホウドリ科
絶滅危惧Ⅱ類 (環境省レッドリスト 2006)

分布及び個体数

- ・繁殖地は、日本の伊豆諸島鳥島と尖閣諸島のみ。
- ・非繁殖期には、北大西洋のベーリング海やアリューシャン列島、アラスカ沿岸まで移動する。
- ・1949年の調査で1度絶滅宣言が出されたが、1951年に約10羽が鳥島で再発見された。
- ・減少要因は、1890～1900年代に羽毛採取のために大量に捕獲されたことによる。

形態及び生物学的特性

- ・成熟個体で全長が84～94cm。
- ・成長は、胴部と翼の基部が白色で頭部は淡黄色。翼の先端部から後縁にかけてと尾の先端が黒褐色。ヒナ～2歳頃までの若鳥は全身黒褐色の羽毛で、成長羽になるまでは7～8年以上かかる。
- ・繁殖活動は10月～翌年5月。
- ・巣立ち後3～4年で巣立った場所へ戻ってくる。7歳頃から繁殖に参加するが、巣立った場所で繁殖を行う傾向が強い。

保護の対策

- ・種の保存法に基づく「国内希少野生動植物種」に指定 (平成5年)
- ・国の特別天然記念物

写真



繁殖ペア(手前はクロアシアホウドリ)



求愛ダンス



巣立ち直前のヒナ(5月)



給餌

2) 環境省のアホウドリ保護増殖事業の経緯

- 1981年（昭和56年）より、鳥島の燕崎でアホウドリの生息状況調査及び繁殖地の維持・保全事業を開始し、砂防工事、堆積土砂の除去及び植栽等を行って、繁殖成功率の向上に取り組んできた。
- 1993年（平成5年）には種の保存法に基づく国内希少野生動植物種に指定すると共に、保護増殖事業計画を策定し、燕崎に対して島の反対側に位置する緩斜面（初寝崎）に新たな繁殖地を形成するため、アホウドリのデコイ（模型）及びアホウドリの鳴き声を再生する装置を用いてアホウドリを誘導する事業を開始した。
- 1993年の推定個体数は約600羽であったが、事業開始後、アホウドリの個体数は順調に増加し、1999年（平成11年）には1000羽を超えた。
※1998年（平成10年）作成の環境省レッドリストにおいて、ランクが引き下げられ絶滅危惧Ⅱ類となった。
- 2005年（平成17年）の分科会では、新繁殖地（初寝崎）へのコロニー定着という大きな成果を得て、鳥島内の事業をモニタリングに移行する方針が了承された。
- 2006年（平成18年）8月には、鳥島事業のモニタリングへの移行と、小笠原群島に第3の繁殖地を形成する内容を盛り込み、文部科学省、農林水産省、環境省の共同で新たな「アホウドリ保護増殖事業計画」を策定した。
- 2008年（平成20年）の分科会では、小笠原群島での新たな繁殖地の候補に、聳島列島の「聳島」が選定された。
- 2008年に鳥島のヒナ10羽を直線距離で約350km離れた聳島までヘリコプターで移送し、約3ヶ月間人工飼育を行い、全てが巣立ちを迎えた。
- 2009年（平成21年）2月19日に鳥島のヒナ15羽を聳島までヘリコプターで移送し、約3ヶ月の人工飼育を行い、5月25日までに全てが巣立ちを迎えた。

